アマチは占星術に依存する心の傾向をいさめています。

大切なメッセージだと思いますし、占星術を学ぶ一人として自らの為に、拙訳します。

子供たちよ、将来の恐れのために占星術に依存する人はたくさんいます。結婚、仕事、就職、昇格・・などの事で心配したり狼狽する人はあとを絶ちません。私たちがこの人生で直面する事柄は、それが好ましくないものであれ好ましいものであれ、過去生におけるわたしたちの行いが原因です。占星術は私たちの運命についての手がかりを与え、ネガティブな経験を軽くする様々な働きかけを可能にしますが、完全に防ぐのではありません。ですから、問題に対して落ち着いて忍耐する力のある心をつくることこそが、大切なのです。

あるマハートマ（偉大な賢者）が、二つの偶像を王様に与えて言いました。「これらの偶像に十分注意をするように。もし偶像が壊れることがあれば、大きな災難が国を襲うであろう。それは戦争、飢餓、洪水のいずれかである。」と。王様は偶像を特別な場所に安置し厳重に扱うよう召使に命じました。ある日、偶像のうちひとつが壊れました。召使は王様にこれを報告しました。怒った王様は彼を投獄しました。その数日後、隣国が国を襲撃しました。これはかの召使の失態のせいだと、王は彼を絞首刑にするよう命じました。今際の際に最後の望みを聞かれた召使は「私が死ぬ前に、もうひとつの偶像を壊させてください。」と言いました。「なぜそのようなことを？」を王は尋ねました。召使は「最初の偶像が壊れた時にあなたはわたしを弾劾しました。あの偶像のせいでまた無実の人間を死なせえるわけにはまいりません。マハートマは、もし偶像が壊れると災いが起こるであろうと言いました。しかし偶像が壊れるから災いが起きるとは言いませんでした。偶像が壊れたのは単に起こることになっていた戦争の予兆でした。あなたは兆候を受け取ったら直ちに敵王の軍隊に対抗する準備をすべきでした。」王は自分の過ちに気づき、召使を釈放したということです。

占星術や兆しは、単に起こることになっている苦難や幸運を示すだけです。困難に対して、神や惑星を呪っても何にもなりません。わたしたちは不放逸のまま、行動の全てが確実な善となるよう意識を保つべきです。もしこれができたら、わたしたちの未来は良いことばかりになるでしょう

無神論者や懐疑主義者ですら占星術家や預言者を信頼します。善良な、直観に優れた占星術家があなたの過去を言い当てたり将来についてかなり正確な予測をする場合があるでしょう。高次元の領域に心の波動を合わせる彼の能力は、占星術家としての学識を超えたものです。究極的には、神の恩寵と関わる能力が彼の予測に正確さを与えるのです。

同様に、我々が経験する運命としての状況や経験を変えることができるのは神の恩寵によってのみです。カルマによる結果で避けられるものなど一つも無いことを覚えておくことも重要です。無私の祈りや瞑想、精神修養は、好ましい影響をもたらします。聖職者が執り行うプージャーやホーマこそが助けになると考えている人はたくさんいます。そのような儀式が非常に強力な一方で、私たち自身が精神性・宗教性の面で心底から献身的に努力するほうがもっと大切です。

占星術はヴェーダ聖典の一部です。純粋で精妙な数学的な計算による、太陽系と自然と人間の心の変化の関係性についての科学です。他のあらゆる聖典と同様、リシ（ヴェーダを感得した古代の聖者）の心が宇宙とひとつであったとき、占星術の知識もリシの深い瞑想の中でリシの心に現れました。

すなわち、私たちが信頼をおくべきは占星術師でも彼の予言でもない、この宇宙を司る究極的な力すなわち：神 ということになります。

わたしたちが我々が過去に行った無知による行動を、知的で明敏な今の行いによってバランスをとられなければなりません。

わたしたちがそうすれば、未来はわたしたちにとって友人となります。

出典：http://www.lightonvedicastrology.com/vedic-astrology-diary-h/856-the-addictive-use-of-astrology